

高知県感染症発生動向調査（週報）

2025年 第24週 （6月9日～6月15日）

★県内での感染症発生状況

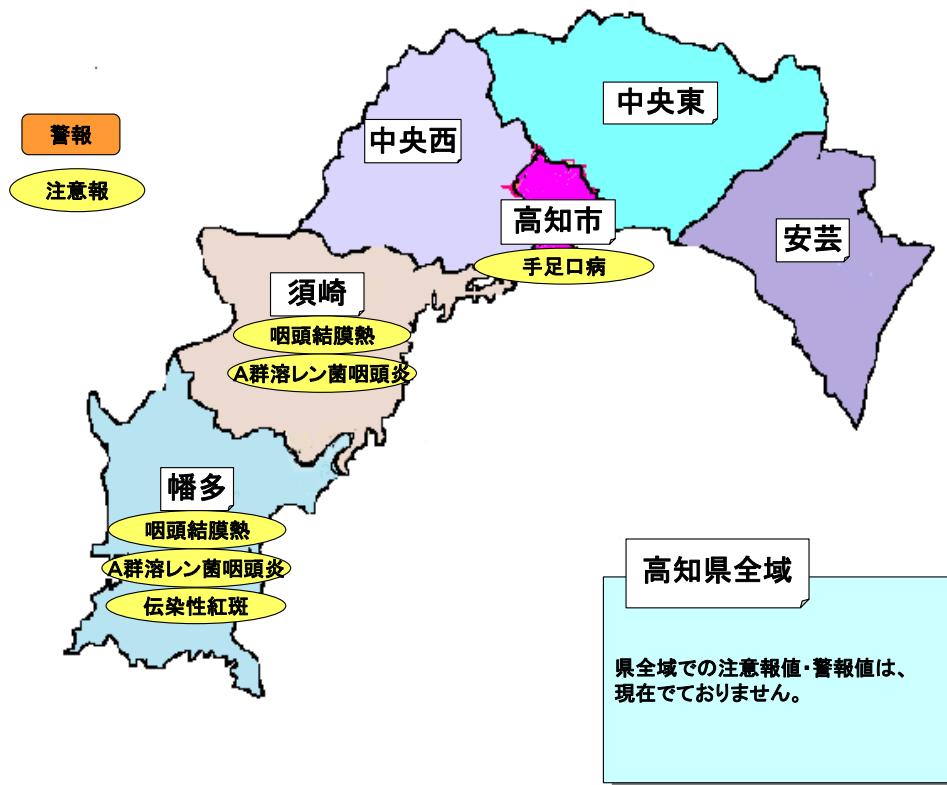
急性呼吸器感染症及び小児科定点把握感染症（上位5疾患）

疾病名	推移	定点当たり 報告数	保健所管内別の傾向
感染性胃腸炎	→	3.55	幡多、中央西、須崎で増加していますが、中央東で急減しています。
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↗	3.15	幡多で急増していますが、須崎、高知市、中央西、中央東で減少しています。
手足口病	↗	0.90	高知市で増加しています。
伝染性紅斑	↗	0.65	幡多で急増、高知市で増加していますが、須崎で減少しています。
ヘルパンギーナ	↑	0.65	高知市、幡多で急増していますが、中央東、須崎で急減しています。

<推移の基準>

急増	↑	前週と比較し、2倍以上の場合	減少	↘	前週と比較し、0.5倍以上～0.8倍未満の場合
増加	↗	前週と比較し、1.2倍以上～2倍未満の場合	急減	↓	前週と比較し、0.5倍未満の場合
横ばい	→	前週と比較し、0.8倍以上～1.2倍未満の場合			

★地域別警報・注意報状況



★週報の発行日

週報は、毎週「木曜日」の午後3時30分以降に発行します。

ただし、「火曜日」「水曜日」「木曜日」が祝日の場合は、「金曜日」になります。

★気になる感染症

百日咳

2025 年 2 月以降増加しており、4 月中旬からは 1 週間に 50 人を超える症例が報告されています。現在 666 件（2025 年 1 月 1 日から 6 月 18 日までの累計速報値）となっており、年齢別では 10～14 歳が最も多く、15～19 歳、20 歳以上の報告数も増加傾向です。

また、収集した百日咳患者の検体から、治療薬であるマクロライド系抗菌剤に耐性を示す百日咳菌が多数検出されています。

年間報告数

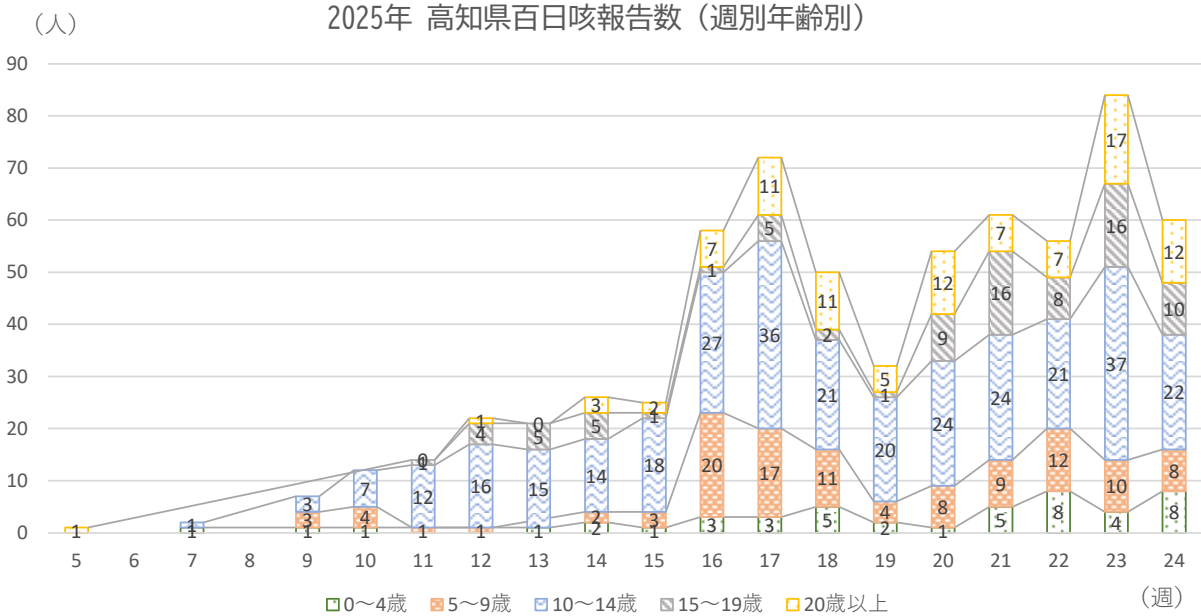
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
高知県	173	172	33	3	9	7	5	666
全国	12,115	16,845	2,819	707	491	1,000	4,093	31,883

年齢別・保健所管内別報告数

(受理週で集計)

年齢 保健所	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	総計
安芸	0	0	3	1	0	4
中央東	1	5	23	9	6	44
高知市	24	76	202	57	72	431
中央西	1	1	11	6	6	25
須崎	2	24	52	4	3	85
幡多	20	9	30	9	9	77
総計	48	115	321	86	96	666

(受理週で集計)



症状

- ① 通常 7～10 日の潜伏期を経て、通常の風邪症状となり、次第に咳の回数が増え、程度も激しくなります（カタル期）。
- ② 短い咳が連続的に起こり（スタッカート）、続いて息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出ます（ウープ）。このような咳嗽発作が繰り返すことをレプリーゼといい、しばしば嘔吐を伴います（痙攣期）。
- ③ 激しい発作は次第に減衰し、2～3 週間で認められなくなりますが、その後、時折発作性の咳が出て、全経過約 2～3 ヶ月で回復します（回復期）。

感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫や接触により感染します。乳児は、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後 6 か月未満では死に至る危険性がある疾患です。成人では、咳は長期間続きます

が、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れることがあります。患者や百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児への感染に注意してください。

●予防方法

- *人混みはなるべく避け、外出時にはマスクを着用しましょう。帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- *定期予防接種があります。ワクチンは生後2ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けることをお勧めします。

●学校感染症

百日咳は、学校保健安全法（同法施行規則第18・19条）では、学校感染症（第2種）に位置づけられており、「特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで出席停止」とされています。ただし、病状により感染の恐れがないと認められたときはこの限りではありません。

ダニの感染症(SFTS・日本紅斑熱)

第24週に高知市保健所から「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」1件、「日本紅斑熱」2件の発生届がありました。

初診月	2021年(R3)		2022年(R4)		2023年(R5)		2024年(R6)		2025年(R7)	
	日本紅斑熱	SFTS	日本紅斑熱	SFTS	日本紅斑熱	SFTS	日本紅斑熱	SFTS	日本紅斑熱	SFTS
1～3月	1	2		1		4		2		
4～6月	7	2	2		8	3	4	4	13	8
7～9月	3		8	3	5	2	3	2		
10～12月	5		2	4	3	1	2	2		
計	16	4	12	8	16	10	9	10	13	8

「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」や「日本紅斑熱」は、屋外に生息する比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

マダニは、春から秋にかけて活動が活発になります。この時期は、農作業やレジャーなど野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

また、ネコやイヌなどの動物が感染、発症した場合、その血液や唾液などの体液に直接触れることで感染する可能性があります。ペットの健康状態の変化に注意し、体調不良の際には、咬まれたり舐められたりしないように注意してください。必要な場合は動物病院を受診しましょう。また、ペットがマダニに咬まれないようダニ駆除剤を使用することも有効です。獣医師に相談しましょう。

●予防方法

- *マダニに「咬まれないようにする」ことが予防策になります。
- *野山や畑などに出る時には、長袖・長ズボンで肌の露出を避けましょう。
- *忌避剤（虫よけ剤）を効果的に使用しましょう。（説明書の注意書に沿って使用してください。）
- *野外活動後はダニに咬まれていないか確認しましょう。
- *飼っているネコやイヌが外で咬まれることもあります。ブラッシング等をこまめにしてマダニを持ち込まないようにしましょう。
- *体調不良のペットに触れたときは、手洗いを心がけてください。

●発熱等の症状が出た場合

- *野山に入って数日～数週間経過した後、発熱等の症状が出た場合は、医療機関を受診してください。
- *受診の際は、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれた可能性）を伝えてください。

●参考

- *重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- *高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024022700074/>

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	結 核	1	23	80 歳代 女性	安 芸
		1		80 歳代 女性	高知市
		1		90 歳代 女性	
4 類	重症熱性血小板減少症候群	1	8	60 歳代 男性	
	日本紅斑熱	1	13	70 歳代 女性	
		1		80 歳代 男性	
5 類	レジオネラ症	1	4	70 歳代 男性	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	5	40 歳代 女性	中央東
	梅 毒	1	21	20 歳代 男性	
	百日咳	1	642	10～14 歳 男性	
		1		10～14 歳 女性	高知市
		2		0～4 歳 男性	
		2		0～4 歳 女性	
		4		5～9 歳 男性	
		5		5～9 歳 女性	
		10		10～14 歳 男性	
		15		10～14 歳 女性	
		2		15～19 歳 男性	
		7		15～19 歳 女性	
		1		20 歳代 男性	
		4		20 歳代 女性	
		1		30 歳代 男性	
		3		30 歳代 女性	
		1		40 歳代 男性	
		3		40 歳代 女性	
		1		60 歳代 男性	
		1		60 歳代 女性	
		1		70 歳代 女性	
		1		10～14 歳 男性	中央西
		1		10～14 歳 女性	
		1		0～4 歳 女性	須 崎
		1		10～14 歳 男性	
		1		10～14 歳 女性	
		1		15～19 歳 女性	幡 多
		4		0～4 歳 男性	
		1		0～4 歳 女性	
		1		10～14 歳 女性	

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
24	伝染性紅斑	39℃	13	女	須崎	human parvovirus B19 Human herpes virus 7
24	不明発疹症	発疹	7	男	須崎	Human herpes virus 7
24	伝染性紅斑	発疹	4	女	須崎	human parvovirus B19 Human herpes virus 7
24	EBウイルス疑い	38℃, 発疹	4	女	須崎	Rhinovirus
24	伝染性紅斑	発疹	6か月	男	須崎	human parvovirus B19
24	手足口病	39℃, 咳嗽, 発疹, 口内炎	1	女	高知市	Parainfluenza virus 3
24	感染性胃腸炎	38℃, 下痢, 嘔吐, ロタウイルス胃腸炎	6	男	高知市	Rotavirus group A G1
24	—	38℃, 気管支炎	1か月	女	高知市	Parainfluenza virus 3
24	咽頭結膜熱	39℃, 咳嗽, 上気道炎	2	男	幡多	Rhinovirus
24	RSウイルス感染症	40℃, 咳嗽	2	女	幡多	Parainfluenza virus 3 Rhinovirus
24	RSウイルス感染症	38℃, 咳嗽, 気管支炎	5か月	男	幡多	Respiratory syncytial virus B
24	RSウイルス感染症	40℃, 咳嗽	1	男	幡多	Respiratory syncytial virus B
24	急性呼吸器感染症（インフルエンザ）	39℃, 腹痛, 咳嗽, 上気道炎	14	男	高知市	Influenza virus B/Victoria
24	急性呼吸器感染症（インフルエンザ様疾患）	39℃, 咳嗽	13	女	高知市	Influenza virus B/Victoria
24	急性呼吸器感染症（インフルエンザ様疾患）	40℃	1	男	幡多	Parainfluenza virus 3 Respiratory syncytial virus A
24	急性呼吸器感染症（インフルエンザ様疾患）	39℃, 咳嗽, 発疹	1	女	幡多	Parainfluenza virus 3
24	急性呼吸器感染症（インフルエンザ様疾患）	39℃, 咳嗽	1	女	幡多	Parainfluenza virus 3
24	急性呼吸器感染症（インフルエンザ様疾患）	咳嗽	1	男	幡多	Parainfluenza virus 3 Respiratory syncytial virus A
24	急性呼吸器感染症（COVID19）	—	73	男	高知市	Parainfluenza virus 3

前週以前の受付

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
23	咽頭結膜熱	40℃	1	男	須崎	Adenovirus 5
23	急性呼吸器感染症（インフルエンザ様疾患）	咳嗽	5か月	男	幡多	Adenovirus 2 Rhinovirus

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	いちほら内科小児科	百日咳 1 例（15 歳男）
	早明浦病院小児科	ロタウイルス感染性胃腸炎 1 例（11 歳男）
	JA 高知病院小児科	突発性発疹 1 例 ヘルパンギーナ 1 例 hMPV 1 例 流行性耳下腺炎 1 例 溶連菌咽頭炎 1 例 アデノウイルス咽頭炎 3 例 インフルエンザ B 型 1 例 手足口病 2 例 伝染性紅斑 2 例 第 23 週 マイコプラズマ（Lamp 法）2 例 百日咳（Lamp 法）2 例
高知市	けら小児科・アレルギー科	百日咳 8 例（10 歳、11 歳、12 歳 3 人、13 歳、14 歳、15 歳） ロタウイルス腸炎 1 例（7 歳） インフルエンザ B 型 3 例 マイコプラズマ肺炎 3 例（7 歳、10 歳、14 歳）

保健所	医療機関	情 報
高知市	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 10 例 手足口病 13 例（流行している） ヘルパンギーナ 3 例 伝染性紅斑 2 例
	細木病院小児科	百日咳 2 例（4 歳男、10 歳男） アデノウイルス咽頭炎 1 例（5 歳男） アデノウイルス感染症 1 例（1 歳 7 か月女） マイコプラズマ肺炎 2 例（5 歳女、9 歳女） 感染性胃腸炎 5 例（内ロタウイルス胃腸炎 2 人） 咽頭結膜熱 1 例 溶連菌感染症 2 例 手足口病 3 例 伝染性紅斑 1 例 ヘルパンギーナ 4 例 インフルエンザ B 型 1 例 COVID-19 1 例
中央西	くぼたこどもクリニック	RS ウイルス気管支炎 1 例（2 か月女：県外から帰省） マイコプラズマ感染症 2 例（7 歳女、12 歳男）
	日高クリニック	百日咳 1 例（15 歳女） マイコプラズマ気管支炎 2 例（8 歳女、11 歳女） マイコプラズマ肺炎 1 例（11 歳男）
須 崎	もりはた小児科	百日咳 3 例（9 歳、11 歳、15 歳） 溶連菌感染症 11 例 水痘 1 例（13 歳）
幡 多	こいけクリニック	百日咳 17 例 （1 歳男 2 人、1 歳女、2 歳男、2 歳女 5 人、3 歳男、3 歳女 2 人、4 歳男 2 人、4 歳女、5 歳女、9 歳女） アデノウイルス扁桃炎 2 例（1 歳男、5 歳女）

★注目すべき感染症

百日咳

2025 年第 1～21 週（2025 年 5 月 28 日現在）

百日咳は主に百日咳菌（*Bordetella pertussis*）を原因菌とする急性気道感染症であり、主な感染経路は飛沫感染および接触感染である。パラ百日咳菌（*Bordetella parapertussis*）も原因となるが、感染症法では百日咳菌による感染のみが届出の対象となる。経過はカタル期（かぜ症状）、痙咳期（特有の発作性けいれん性の咳、吸気性の笛声など）、回復期（発作の減衰）の 3 期を経て、通常 2～3 カ月かけて回復するとされている。乳児期早期では特徴的な咳嗽がみられないことがある。また、無呼吸発作から呼吸停止に至る場合もある。さらに、肺炎や脳症などの合併症も報告されているため、特に注意が必要である。成人では軽症であることが多く、咳が長期間続いても見過ごされることがある。治療としては主にマクロライド系抗菌薬が使用される。小児期の予防の中核となるのは定期接種としての五種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の 4 回接種であり、これに加えて、基本的な手指衛生や感染予防策も有効である。

わが国において、百日咳は 2017 年まで感染症法上の 5 類感染症小児科定点把握対象疾患であったが、2018 年 1 月 1 日から 5 類全数把握疾患に指定され、国内においてより正確な疫学や発生動向の把握が可能となった。百日咳は、特有の咳嗽などの臨床的特徴を有し、病原体の分離・同定、核酸増幅法、イムノクロマト法による抗原検出、抗体検出のいずれかの検査で診断された場合、または検査所見がなくても検査確定例との接触があり臨床的に疑われる場合（臨床決定）に届出対象となる。加えて学校保健安全法における第二種感染症にも指定されている。本稿は、感染症発生動向調査に基づき、国内における百日咳届出症例の最新の疫学的状況を報告することを目的としている。

2025 年第 1～21 週に診断された百日咳の累積報告数（2025 年 5 月 28 日現在）は 22,351 例であり、全数把握疾患としての報告が開始された 2018 年以降、同時期で最多を記録した。2024 年の年間報告数は 4,096 例であり、2025 年は第 21 週までの累積報告数が昨年の年間報告数の 5 倍以上となっている。また、2018～2024 年の第 1～21 週では診断週別報告数が 500 例を超えた週はなかったが、2025 年は第 10 週に 571 例が報告された。特に第 15 週以降の報告数の増加が顕著であり、第 15 週の報告数は 1,611 例で、さらに第 16 週以降は毎週 2,000 例を超える症例が報告されている。

報告された 22,351 例のうち、臨床決定で報告されたのは 662 例（3%）であった。それ以外の 21,689 例では何らかの検査が実施されていたが、うち、PCR 法や LAMP 法などの核酸増幅法で病原体遺伝子が検出された症例は 13,501 例（62%）であった。性別では男性 11,366 例、女性 10,983 例、不明 2 例であり、年齢中央値は 12 歳（範囲 0～99 歳）であった。年齢群別では、2025 年第 1～21 週の累積報告数では 10 代が全体の 58.7%を占めており、例年の水準と比較して顕著な増加となっている。また、20 代以上の年齢群が占める割合は例年と比較して低い。2018～2025 年の第 1～21 週における年齢群別の累積報告数（n）と割合は表 1 のとおりであった。

表1. 第1～21週における百日咳の累積報告数の年齢分布（2018～2025年）

	0歳 (0～5か月)	0歳 (6～11か月)	1～9歳	10代	20代以上
2018年 (n=1,825)	5.5% (100)	1.0% (18)	33.2% (605)	29.2% (533)	31.2% (569)
2019年 (n=6,425)	4.9% (315)	0.5% (33)	40.7% (2,612)	32.4% (2,081)	21.5% (1,384)
2020年 (n=2,360)	6.0% (141)	0.5% (12)	36.8% (868)	27.2% (643)	29.5% (696)
2021年 (n=221)	0.5% (1)	1.8% (4)	21.7% (48)	14.5% (32)	61.5% (136)
2022年 (n=226)	2.2% (5)	4.4% (10)	44.2% (100)	12.4% (28)	36.7% (83)
2023年 (n=282)	4.3% (12)	1.1% (3)	35.8% (101)	16.0% (45)	42.9% (121)
2024年 (n=342)	2.6% (9)	0% (0)	34.2% (117)	20.5% (70)	42.7% (146)
2025年 (n=22,351)	2.0% (456)	0.4% (92)	23.6% (5,268)	58.7% (13,129)	15.2% (3,406)

(2025年5月28日現在)

2025 年第 1～21 週の累積報告数の上位 3 都道府県は新潟県（1,473 例）、東京都（1,448 例）、大阪府（1,276 例）であったが、人口 10 万人当たりの報告数は、宮崎県（81.1 例）が最も多く、次いで東京都（70.2 例）、高知県（68.9 例）の順であった。届出に記載されたワクチン接種歴については、接種歴なしが 581 例、1 回が 188 例、2 回が 98 例、3 回が 592 例、4 回が 13,072 例、不明が 7,820 例であった。

また、2018～2025 年の各年で第 1～21 週に診断された百日咳の累積報告数、報告医療機関数、そして医療機関当たりの報告数は表 2 のとおりであった。

表2. 第1～21週における百日咳の累積報告数、報告医療機関数、医療機関当たり報告数（2018～2025年）

	累積報告数	報告医療機関数	医療機関当たり報告数
2018年	1,825	753	2.42
2019年	6,425	1,894	3.39
2020年	2,360	1,030	2.29
2021年	221	139	1.59
2022年	226	106	2.13
2023年	282	156	1.81
2024年	342	180	1.9
2025年	22,351	4,198	5.32

（2025年5月28日現在）

2025年第21週までの報告医療機関数は4,198に達し、医療機関当たり報告数は5.32であった。報告医療機関数の大幅な増加は、2025年第15週から開始された急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスの導入に伴い、国内における呼吸器感染症への関心が高まったことが一因と考えられる。一方、同時期に他の呼吸器感染症においては同様な増加は見られておらず、医療機関当たりの報告数も過去7年間の水準を大きく上回っていることから、報告医療機関の増加のみでは十分に説明できない百日咳の全国的な流行が示唆される。

近年は治療の第一選択薬であるマクロライド系抗菌薬に耐性を示す百日咳菌（MRBP：macrolide-resistant *B. pertussis*）が日本を含む世界各国で問題となっている。日本では2024年以降、東京都、大阪府、鳥取県、沖縄県からMRBPに感染した症例が報告されている。2025年4月には、基礎疾患のない生後1カ月の女児がMRBP感染により呼吸不全、肺高血圧、腎不全を呈し亡くなった例が報告されている。今後も細菌学的・疫学的解析を継続することで、百日咳菌の薬剤耐性の動向を把握していくことが重要である。

百日咳の流行は国外でも拡大しており、2021年以降、世界保健機関への報告数は欧米諸国を含む世界各地で増加傾向を示している。2025年5月31日には、アメリカ大陸地域の複数の国で報告が大幅に増加していることを受け、汎米保健機構/世界保健機関が疫学的アラートを発した。本警告では、百日咳のサーベイランスを強化するとともに、特に1歳未満および5歳未満の小児に注意しながらワクチン接種率を継続的に監視するよう、加盟国に対し要請している。

百日咳の報告数は今後も増加していく可能性があり、全年齢にわたって注意が求められる。2025年5月21日には予防接種推進専門協議会から「百日咳流行に伴うワクチン接種に関するお願い」が公開されているが、乳児を中心とした小児期の感染予防策としては、生後2カ月から定期接種として接種可能な5種混合ワクチンの接種を受けることが最も重要である。また、近くに乳幼児や妊婦がいる場合は特に、飛沫・接触感染の予防に注意することが求められる。ワクチン接種から年数が経過した青年・成人も感染する可能性があるため、マスクの着用や咳エチケット、手洗いなどの基本的な感染対策を徹底することに加えて、咳が持続する場合は百日咳の可能性を考慮して医療機関を受診し、予防行動をとることも重要である。

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1 高知県保健衛生総合庁舎2階

TEL：088-821-4961 FAX：088-821-4696

※この情報に記載のデータは2025年6月17日現在の情報により作成しています。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報（49定点医療機関）

定点名 (定点数)		疾病名等	保健所	第24週 令和7年6月9日（月）～令和7年6月15日（日）					高知県衛生環境研究所			
				安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前 週	全国（23週）
急性呼吸器 感染症 (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*	99	296	766	180	67	227	1,635（ 43.03 ）	1,730（ 45.53 ）	231,814（ 60.24 ）	13,561（ 356.87 ）	1,952,724（ 508.92 ）
	インフルエンザ		1	4				5（ 0.13 ）	11（ 0.29 ）	1,415（ 0.37 ）	7,894（ 207.74 ）	613,764（ 137.46 ）
	新型コロナウイルス感 染 症	1	2	6	2		1	12（ 0.32 ）	19（ 0.50 ）	3,544（ 0.92 ）	3,939（ 103.66 ）	366,470（ 82.08 ）
小児科 (20)	咽 頭 結 膜 熱			1		2	3	6（ 0.30 ）	14（ 0.70 ）	1,690（ 0.72 ）	126（ 6.30 ）	21,578（ 7.71 ）
	A群溶血性レンサ球菌 咽 頭 炎		4	28	5	13	13	63（ 3.15 ）	86（ 4.30 ）	7,684（ 3.26 ）	1,246（ 62.30 ）	144,433（ 51.62 ）
	感 染 性 胃 腸 炎	1	2	45	5	4	14	71（ 3.55 ）	74（ 3.70 ）	15,247（ 6.47 ）	2,368（ 118.40 ）	477,665（ 170.72 ）
	水 痘			1		1		2（ 0.10 ）	3（ 0.15 ）	1,100（ 0.47 ）	78（ 3.90 ）	21,072（ 7.53 ）
	手 足 口 病		2	16				18（ 0.90 ）	12（ 0.60 ）	444（ 0.19 ）	113（ 5.65 ）	5,757（ 2.06 ）
	伝 染 性 紅 斑		3	4		1	5	13（ 0.65 ）	8（ 0.40 ）	5,370（ 2.28 ）	383（ 19.15 ）	63,874（ 22.83 ）
	突 発 性 発 疹		1	6	1	1	3	12（ 0.60 ）	10（ 0.50 ）	800（ 0.34 ）	119（ 5.95 ）	15,284（ 5.46 ）
	ヘルパンギーナ		1	11			1	13（ 0.65 ）	6（ 0.30 ）	447（ 0.19 ）	30（ 1.50 ）	1,704（ 0.61 ）
	流行性耳下腺炎		1					1（ 0.05 ）	2（ 0.10 ）	230（ 0.10 ）	23（ 1.15 ）	3,046（ 1.09 ）
	RSウイルス感染症				2	1	1	1	5（ 0.25 ）	6（ 0.30 ）	590（ 0.25 ）	395（ 19.75 ）
眼科 (3)	急性出血性結膜炎							（ ）	（ ）	29（ 0.04 ）	（ ）	747（ 1.08 ）
	流行性角結膜炎			2				2（ 0.67 ）	（ ）	635（ 0.91 ）	26（ 8.67 ）	12,560（ 18.18 ）
基幹 (8)	細菌性髄膜炎							（ ）	（ ）	14（ 0.03 ）	1（ 0.13 ）	218（ 0.45 ）
	無菌性髄膜炎							（ ）	（ ）	22（ 0.05 ）	5（ 0.63 ）	289（ 0.60 ）
	マイコプラズマ肺炎			2				2（ 0.25 ）	3（ 0.38 ）	243（ 0.51 ）	115（ 14.38 ）	4,804（ 10.01 ）
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							（ ）	（ ）	2（ ）	（ ）	46（ 0.10 ）
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)				3			3（ 0.38 ）	1（ 0.13 ）	70（ 0.15 ）	19（ 2.38 ）	1,603（ 3.34 ）
計 (ARIを除く)		2 (1.33)	17 (3.93)	131 (18.04)	14 (6.50)	23 (11.50)	41 (13.47)	228 (11.95)		39,576	16,880 (555.45)	1,805,506
前 週 (ARIを除く)		3 (2.33)	35 (8.64)	138 (16.83)	16 (7.50)	37 (18.00)	26 (8.10)		255 (12.35)			
※ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、発熱のいずれか1つ以上）を呈している症例												
※ARIの集計法：上記症状の患者を疑うため、インフルエンザやOIV(D-19、咽頭結膜熱)等の患者と重複している場合があります												
											注	（ ） は定点当たり人数

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれかつ以上）を呈している症例
※ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

高知県感染症情報（49定点医療機関） 定点当たり人数

定点名 (定点数)		保健所		第24週									
疾病名等		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前 週	全国 (23週)	高知県 (24週末累計) R6/12/30～R7/6/15	全国 (23週末累計) R6/12/30～R7/6/8	
急性呼吸器 感染症 (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*	33.00	42.29	58.92	45.00	16.75	32.43	43.03	45.53	60.24	356.87	508.92	
	インフルエンザ		0.14	0.31				0.13	0.29	0.37	207.74	137.46	
	新型コロナウイルス感 染 症	0.33	0.29	0.46	0.50		0.14	0.32	0.50	0.92	103.66	82.08	
小児科 (20)	咽 頭 結 膜 熱			0.13		1.00	1.00	0.30	0.70	0.72	6.30	7.71	
	A群溶血性レンサ球菌 咽 頭 炎		1.00	3.50	2.50	6.50	4.33	3.15	4.30	3.26	62.30	51.62	
	感 染 性 胃 腸 炎	1.00	0.50	5.63	2.50	2.00	4.67	3.55	3.70	6.47	118.40	170.72	
	水 痘			0.13		0.50		0.10	0.15	0.47	3.90	7.53	
	手 足 口 病		0.50	2.00				0.90	0.60	0.19	5.65	2.06	
	伝 染 性 紅 斑		0.75	0.50		0.50	1.67	0.65	0.40	2.28	19.15	22.83	
	突 発 性 発 疹		0.25	0.75	0.50	0.50	1.00	0.60	0.50	0.34	5.95	5.46	
	ヘルパンギーナ		0.25	1.38			0.33	0.65	0.30	0.19	1.50	0.61	
	流行性耳下腺炎		0.25					0.05	0.10	0.10	1.15	1.09	
	RSウイルス感染症			0.25	0.50	0.50	0.33	0.25	0.30	0.25	19.75	18.08	
眼科 (3)	急性出血性結膜炎									0.04		1.08	
	流行性角結膜炎			2.00				0.67		0.91	8.67	18.18	
基幹 (8)	細菌性髄膜炎									0.03	0.13	0.45	
	無菌性髄膜炎									0.05	0.63	0.60	
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.25	0.38	0.51	14.38	10.01	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)											0.10	
	感染性胃腸炎 (ロ タウイルスに限る)			0.60				0.38	0.13	0.15	2.38	3.34	
計 (ARIを除く)		1.33	3.93	18.04	6.50	11.50	13.47	11.95			555.45		
前 週 (ARIを除く)		2.33	8.64	16.83	7.50	18.00	8.10		12.35				

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、発熱のいずれか1つ以上）を呈している症例

*ARIの集計注：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれかつ以上）を呈している症例
※ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

疾病別・年齢別報告数

高知県感染症情報（49定点医療機関）			疾病別・年齢別報告数													2025年		24w									
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上													
急性呼吸器感染症 (38)	急性呼吸器感染症 (ARI)*	1,635	147	556	290	222	60	43	40	52	37	41	77	70													
定点 (定点数)	疾病名等	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上					
急性呼吸器感染症 (38)	インフルエンザ	5							1					3		1											
	新型コロナウイルス感染症	12			2											1		1	2	1	4	1					
定点 (定点数)	疾病名等	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上											
小児科 (20)	咽頭結膜熱	6		2	2		1				1																
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63		1	4		3	2	9	12	6	5	5	11		5											
	感染性胃腸炎	71		7	9	6	2	2	9	5	4	3	2	14	2	6											
	水痘	2									1			1													
	手足口病	18		1	7	4	5				1																
	伝染性紅斑	13				2		2	5	3		1															
	突発性発疹	12		4	8																						
	ヘルパンギーナ	13		2	4	4	2		1																		
	流行性耳下腺炎	1												1													
RSウイルス感染症	5	2	1	2																							
定点 (定点数)	疾病名等	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上						
眼科(3)	急性出血性結膜炎																										
	流行性角結膜炎	2							1									1									
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上									
基幹(8)	細菌性髄膜炎																										
	無菌性髄膜炎																										
	マイコプラズマ肺炎	2				2																					
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)																										
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)	3			3																						

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例

*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

疾病別年次報告数推移 2025年第24週
(急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点)

